



2014年3月31日
トムソン・ロイター・マーケッツ株式会社

トムソン・ロイター DealWatch、2013年度の「DEALWATCH AWARDS」を発表

総合部門は発行体に「サントリー食品インターナショナル」、引受ハウスに「野村證券」を選定

トムソン・ロイター・マーケッツ株式会社の「DealWatch(ディールウォッチ)」は、2013年度に国内資本市場において債券や株式を発行した優秀な発行体、海外で資金調達を行った本邦発行体および案件を運営した引受証券会社を称える賞「DEALWATCH AWARDS 2013(ディールウォッチ・アワード 2013)」を発表しました。

DEALWATCH AWARDS は、日本関連の資本市場の育成・拡大に資することを目的に 1995年に設置されました。「本邦市場が世界の主要市場としてさらに発展していく」という観点から、授賞の主な判断基準は発行市場における適正なプライシング、流通市場に移行した後の価格形成、資本市場の発展への貢献や創意・工夫などとなっています。

2013年度の DEALWATCH AWARDS は、「総合」「普通社債」「地方債」「サムライ債」「資産担保証券」「株絡み債」「株式」「不動産投資信託証券」の計8部門で構成されています。

賞の選考方法は、まず主幹事実績やシンジケート団参加の実績がある引受証券会社や投資家にアンケートを依頼し、該当会計年度の案件から各部門の受賞候補を選定します。2006年度からは、希望する証券会社からの自薦を受け、DealWatch編集部が、選定された候補案件や候補者を独自の判断基準に則り、さらに吟味に選考した結果、最終的に受賞案件、受賞者を決定しております。

2013年度の DEALWATCH AWARDS 受賞一覧は添付資料をご覧ください。

以上

DealWatch について

DealWatch は日本の企業および地方公共団体、非日系発行体の資金調達活動をリアルタイムにリポートする日本語のスクリーンニュースサービスです。その速報性、正確性、専門性の高さには定評があり、信頼できる資本市場情報として、市場関係者から支持を得ています。主幹事・引受等のリーゲテーブルは、客観的かつ公平な指標として、発行体の主幹事選定や引受業者のマーケティング活動において幅広く活用されています。

トムソン・ロイターについて

トムソン・ロイターは企業と専門家のために「インテリジェント情報」を提供する企業グループです。業界の専門知識に革新的テクノロジーを結びつけ、世界で最も信頼の置かれている報道部門をもち、ファイナンシャル・リスク、法律、税務・会計、知財・学術情報、メディア市場の主要な意思決定機関に重要情報を提供しています。トムソン・ロイターの株式は、トロント証券取引所および ニューヨーク証券取引所に上場されています。詳しい情報は <http://thomsonreuters.com> をご覧ください。

DEALWATCH AWARDS 2013 受賞一覧

総合部門

<Issuer of the Year>

サントリー食品インターナショナル

グローバルな事業基盤のもと急成長するサントリーHDの清涼飲料子会社が本年度最大のIPOとして登場。買収と既存事業の拡大による中長期の成長戦略を訴求することで不安定な市場環境を克服し、幅広い投資家からの需要の創出に成功した。

<House of the Year>

野村證券

発行市場において群を抜く存在感で、数多くの資金調達を実現させた。各分野においてバランスよく総合力を発揮することで大型案件も円滑な運営で先導的な役割を果たす一方、革新性のある商品設計で資本市場の健全な発展にも貢献した。

普通社債部門

<Straight Bond Issuer of the Year>

日本政策投資銀行

激しく揺れ動く相場に対して、適正なスプレッド目線を作ろうとする責任感のある真摯な姿勢が投資家をはじめとする市場関係者から高い支持を獲得。変動利付債という市場ニーズをとらえた商品の提供も積極的に手掛けた。

<Straight Bond House of the Year>

野村證券

提案力と執行力の高さがリーグテーブル首位という実績に結び付いた。金利変動の激しかった本年度においても、その実力を遺憾なく発揮し、的確なプライシングと安定した起債運営により多くの市場参加者から信頼を得た。

<Straight Bond of the Year>

第20回NTTドコモ債（500億円、10年）

野村證券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／みずほ証券／ゴールドマン・サックス証券／SMBC日興証券

高格付け銘柄のスプレッド水準の調整が進むなか、市場環境に照らし合わせた適正なスプレッドを導き出した。10年債の需給環境を好転させ、後続案件の目線も確立させた。

<Debut Debt Deal of the Year>

第1回イオンフィナンシャルサービス債 (100億円、5年)

みずほ証券／大和証券／野村証券

第2回イオンフィナンシャルサービス債 (100億円、7年)

野村証券／大和証券／みずほ証券

第1回イオンフィナンシャルサービス劣後債 (300億円、10年)

大和証券／みずほ証券

第2回イオンフィナンシャルサービス劣後債 (100億円、10年)

みずほ証券／大和証券

デビュー債ながら4本立て総額600億円という規模感を持ってSB市場に登場。他業界から参入した銀行持株会社というクレジット分析が難しい銘柄だったものの、市場との丁寧な対話を通して水準を模索し劣後債の発行を成功裏に終えた。

<Innovative Debt Deal of the Year>

京都府平成25年度第11回公募公債 (100億円、20年)

大和証券

公募市場では初めてとなる定時償還債を発行し、新たな投資家層の参加を促すことに成功。同市場の商品性の多様化に寄与した。本案件の登場により他団体も相次いで導入するなど後続案件に道を拓いた。

<Offshore Bond of the Year>

ソフトバンクドル債 (24億8500万ドル、7年)

ドイツ銀行セキュリティーズ／バンクオブアメリカ・メリルリンチ／クレディ・アグリコル・CIB／米国みずほ証券／モルガン・スタンレー／野村セキュリティーズ・インターナショナル

ソフトバンクユーロ債 (6億2500万ユーロ、7年)

ドイツ銀行セキュリティーズ／クレディ・アグリコルCIB／みずほインターナショナル／野村インターナショナル
米スプリント買収を目的とした資金調達に向け、国内SBに続く第2弾としてドル債とユーロ債を同時に起債。国内事業会社による外貨建て債として過去最大の案件となり、ハイイールド債を選好する投資家からの旺盛な需要喚起した。

地方債部門

<Local Government Bond Issuer of the Year>

地方公共団体金融機構

黒田日銀による大胆な金融緩和策に翻弄されて債券相場が乱高下。長期債の運用に慎重な投資家需要を回復させるため、柔軟な発行額の調整とスプレッドの思い切ったワイド化を断行。需給悪化を断ち切る姿勢が評価された。

<Local Government Bond House of the Year>

大和証券

定時償還債を地方公共団体に提案し、市場公募債に広めた最大の功労者で市場の活性化に貢献。地方債市場の評価の高い案件に主幹事として名を連ねたほか、流通市場でのマーケットメイクにも積極的である点も称された。

<Local Government Bond of the Year>

北海道平成 25 年度第 6 回公募公債（100 億円、20 年）

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／大和証券／みずほ証券

横並び意識や序列にこだわる地方債銘柄が多いなかで、他団体にとらわれずに納得感のある水準を探った結果、難易度が高い試みであったにもかかわらず主要投資家の呼び込みに成功した。これにより後続案件の可能性を広げることになった。

サムライ債部門

<Samurai Bond Issuer of the Year>

フランス相互信用連合銀行

2011 年度にデビューして以降、サムライ債市場に定期的にアクセス。投資家訪問にも余念がなく、こうした努力が奏功し、大型発行が可能となり、起債を重ねるごとにステータスを向上させた。

<Samurai Bond House of the Year>

SMBC日興証券

フリークエントイシューアによる案件の主幹事に加え、デビューディールへの積極的な参加など着実に引受実績を積み上げた。質の高い案件を多く手掛け、引受業者としての手腕が光った。

<Samurai Bond of the Year>

第 13 回ルノー債（380 億円、2 年）

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／SMBC日興証券

知名度の高さは言うまでもなく、丁寧なマーケティング運営など安定性に定評がある。特にスプレッドの厚みに着目したアクティブ運用の年金からのニーズが高まり、低格付けながら多くの投資家から支持を得た。

資産担保証券 (ABS) 部門

<Asset-backed Securities Deal of the Year>

該当なし

株絡み債部門

<Equity-linked Bond Issuer of the Year>

高島屋

競合ひしめく新宿で再起を狙い「タイムズスクエア」共有持分の追加取得を決定。年限の違う 2 本の CB でバランスのとれた起債を実現した。リーマン後途絶えていた中長期年限での CB 発行再開のマイルストーンとなり市場の発展に貢献した。

<Equity-linked Bond of the Year>

静岡銀行 2018 年満期ユーロドル CB（5 億ドル、5 年）

野村インターナショナル／ゴールドマン・サックス・インターナショナル

邦銀初のドル建ゼロクーポンの転換社債を発行した。自己株取得を同時に行うリキャップ CB により潜在希薄化を抑制。海外貸出の需要増に応えるための成長資金を調達し、後続の邦銀によるユーロドル建転換社債発行の礎となった。

株式部門

<Equity Issuer of the Year>

電通

英国 Aegis Group 買収により“真のグローバル企業”への第一歩を踏み出した。海外進出や新たな事業分野への発展に向けてグローバルオファリングを選択。積極的なマーケティングを展開し、海外を含め投資家層の拡大に成功した。

<Equity House of the Year>

野村證券

活気を取り戻した資本市場でリーグテーブルの首位を独走し、圧倒的な強さを見せた。本年度最大 IPO であるサントリーBF や三菱自動車の JGC を務め、コミットメント型ライツや欧州市場の POWL を実施するなど資本市場に新しい選択肢を提供した。

<Equity Deal of the Year>

三菱自動車工業

<払込日 01/29> モルガン・スタンレーMUFG証券／野村證券／メリルリンチ日本証券

本年度を象徴するターンアラウンド案件の中でも光を放つ。資本再構築プランを実行に移し、優先株処分等で希薄化を抑制するなど既存株主に配慮した案件設計を行った。エクイティストーリーも評価され、投資家からの高い関心を集めた。

<IPO of the Year>

CYBERDYNE

<払込日 03/25> SMBC日興証券

装着型ロボットスーツ「HAL」を開発・製造する大学発ベンチャー企業。高い技術力と今後の成長に期待が膨み「IPOらしい夢のある銘柄」と評された。優先株を用い、普通株式の議決権を調整するなど新たな試みにも注目が集まった。

<Innovative Equity Deal of the Year>

アイ・アール ジャパン

<予約権譲渡日 06/05> 野村證券

コミットメント型ライツ・オファリングの第 1 号としてパイオニア精神を示す。既存株主の希釈化を回避しながら、資金調達を可能とする、新たな調達手段を提案し、きめ細かな案件運営により 98.30%という高い行使率を実現した。

不動産投資信託証券部門

<J-REIT Issuer of the Year>

日本プロロジスリート投資法人

1 年間に 3 度のオファリングを実施。回を追うごとに投資家層の厚みは増し、上場後 1 年で日本を代表する REIT のひとつまで成長した。全ての公募増資において取得物件の質、立地ともに高い評価を得て、投資家の期待に応えた。

<J-REIT House of the Year>

野村證券

イオンリートやヒューリックリート、過去最大となった野村不動産マスターファンドの新規公開を手掛けるなど、J-REIT 市場の拡大を後押し。物件取得が積極的に行われた本年度、引受ハウスとして市場をリードした。

<J-REIT of the Year>

ヒューリックリート投資法人

<払込日 02/06> みずほ証券／野村証券

多様な不動産開発実績を残すヒューリックが組成した REIT として、新年を飾った。好立地、東京集中のオフィス物件への関心は高く、介護施設やネットワークセンターの取得など、新たなアセットクラスを切り拓いた。

以上